

EMLG/JMLG Annual Meeting 2010報告

JMLG secretary

高椋利幸 (佐賀大院工学系)

2010年のEMLG/JMLG Annual Meetingは、“Complex Liquids: Modern Trends in Exploration, Understanding and Application”のテーマで、ウクライナ リビフのIvan Franko National University of Lvivで開催された。会議のチェアパーソンは、Myroslav Holovko教授(Institute for Condensed Matter Physics)が務められた。会期は、2010年9月5日(日)夜のレセプションから9月9日(木)正午過ぎまでであった。参加者総数は100名であり、日本からの参加者は11名(藤村恒児, 平田文男, 伊藤華苗, 亀田恭男, 中田 克, 高椋利幸, 寺嶋正秀, 鳥居 肇, 山口敏男, 山口 毅, 吉田紀生; アルファベット順, 敬称略)であった。その他、ウクライナ39名, ドイツ14名, フランス6名, ポーランド6名, ハンガリー3名などである。日欧以外では、インド2名, メキシコ2名, 米国2名であった。

会議は、9月6日(月)9:00からのOpening Addressで始まった。この中でJMLGのチェアパーソンが山口敏男教授(福岡大理)から鳥居 肇教授(静岡大教育)に交代したことが紹介された。発表プログラムは10件のキーノート(45分)と26件の一般口頭発表(20分)および53件のポスター発表から構成された。キーノートの講演者とタイトルを次に記す(講演順, 敬称略)。

Vojko Vlachy (University of Ljubljana), “Polyelectrolytes in Water: How the Presence of Hydrophobic Groups Modifies the Ion-Specific Effects”

Toshio Yamaguchi (Fukuoka University), “Thermal Behavior, Structure and Dynamics of Liquids and Electrolyte Solutions Confined in Mesoporous Materials”

Siegfried Dietrich (Max Planck Institute for Metals Research and University of Stuttgart), “Critical Casimir Forces”

Pierre Turq (Université Pierre et Marie Curie), “Transport Coefficients: a Path to Explore Convex (Colloidal and Polyelectrolyte solutions) and Concave (Clays, Porous Media) Systems”

Giancarlo Ruocco (Sapienza Università di Roma), “Inelastic X-Ray Scattering Study of the High Frequency Dynamics in Liquids”

Oleg Lavrentovich (Kent State University), “Statics and Dynamics of Colloidal Particles in Liquid Crystals”

Fumio Hirata (Institute for Molecular Science), “Statistical Mechanics of Molecular Liquids Reveals Elementary Processes in Life Phenomena”

Sergiy Minko (Clarkson University), “Stimuli-Responsive Nanostructured Materials”

Jean-Marie Lehn (Université de Strasbourg and Collège de France), “Supramolecular Chemistry for Molecular Liquids, Solutions and Assemblies”

Andriy Kovalenko (National Institute for Nanotechnology and University of Alberta), “Multiscale Methods for Nanochemistry and Biophysics in Solution”

ポスターセッションは第2日11:00-13:00に行われた。掲示場所によっては照明が暗く見づらいポスターがあったが、熱心な議論が行われていた。なお、2009年(Salzburg)では実施された若手口頭発表のセッションは、今回は設けられなかった。第2日15:00-18:00には市内観光のエクスカーションがバス2台に分乗して催され、第3日19:00-22:00に郊外のレストラン Kolybaでバンケットが行われた。

運営会議は第2日19:00から、総会は最終日第4日すべての発表が終了した後に行われた。

EMLGチェアパーソンの任期が来たことから候補者の推薦が求められたが、現チェアパーソンのRichard Buchner教授(University of Regensburg)が2期目3年間を務められることが承認された。その他、EMLGおよびJMLGの会員数状況が報告され、2011年以降の開催地が報告され承認された（下記参照）。

例年と同様に、若手研究者（大学院生・ポスドク）の優秀なポスター発表に対して、ポスター賞が贈られた。今回は以下の3件が選ばれた。受賞者には、賞状のほか、副賞として200 Euroおよび3年間のEMLG/JMLG会費無料の特典が贈呈された。

Ms. K. Ito (Fukuoka University), “The Structure of Ag^+ , Ca^{2+} and Y^{3+} Hydration in Confinement in Nanometer Scale over the Temperature Range of 298 – 190 K”

Mr. H. Maier (Technical University Darmstadt), “Molecular Dynamics Simulations of the Thermocapillary Effect at Model Liquid-Liquid Interfaces”

Mr. S. M Perepelytsya (NAS of Ukraine), “Conformational Vibrations of Ion Lattice in DNA Solution”

2011年以降の会議について

運営会議と総会において、2011年以降の会議の開催地とテーマ等が議論された。

[2011年]

9月11日（日）から15日（木）までWarsaw (Poland)のSofitel Warsaw VictoriaにおいてNew Outlook on Molecular Liquids; from short scale to long scale dynamicsをテーマに開催される。チェアパーソンはWojciech Gadomski教授 (University of Warsaw) が務められる。数名の招待講演者のうち日本からはHideaki Shirota准教授(Chiba University)が既に決定している。例年よりも1週間遅く開催されるのは、8th Liquid Matter ConferenceがWien (Austria)で9月6日から10日に開催されるためである。

[2012年]

Eger (Hungary) において開催される予定である。チェアパーソンはPál Jedlovszky博士が務められる。

以上